

III 活動記録

1. 活動記録

令和2年度

- 8月28日 「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」が文部科学省令和2年度「卓越大学院プログラム」に採択
- 10月 6日 プログラム事業開始
- 11月 1日 マス・フォア・イノベーション卓越大学院事務支援室を理学部等事務部内に配置
- 12月 8日 プログラム担当者説明会をオンラインで開催
- 19日 令和3年度入学者(第1期生)募集のためのプログラム説明会・入試説明会をハイブリッド形式で開催



- 25日 プログラムホームページ公開



- 1月25日 令和3年度入学者(第1期生)募集開始
- 2月25日 「第1回プレ・マス・フォア・イノベーションカフェ」を開催。令和2年度は計3回開催。4月からは、「マス・フォア・イノベーションカフェ」として、2022年3月までに14回開催
- 3月 8日 令和3年度入学者(第1期生20名)合格発表
- 10日～11日 イリノイ大学アーバナ-シャンペーン校との連携ワークショップ
「Mathematics without Borders — Applied and Applicable」をオンライン開催
- 24日 Twitterアカウント開設
- 26日 令和2年度採択プログラムに係るプログラムオフィサー現地訪問【1年度目】
- 30日 「九州大学マス・フォア・イノベーション卓越大学院キックオフシンポジウム」をハイブリッド形式で開催

令和3年度

- 4月 6日 新入生ガイダンスを開催
14日 令和3年度第1回IMIコロキウムを開催。2022年3月までに計8回開催

- 6月 5日 令和4年度4月期入学者向けプログラム説明会をオンラインで開催

- 7月 28日 Study Group Workshop
(SGW) 2021を開催

- 8月 3日



- 9月 1日 英語研修スタート
(対象者:プログラム生20名)



- 6日 富士通株式会社 富士通研究所と合同で卓越社会人博士課程制度説明会を実施

- 11月 5日 名古屋大学卓越大学院プログラム「未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム」と
合同で「卓越大学院連携講演会」を開催

- 12日 令和2年度採択プログラムに係る委員現地視察

- 26日 研究科等連係課程実施基本組織として、「九州大学大学院マス・フォア・イノベーション連係学府」
の設置報告が受理

- 12月 3日 イリノイ大学アーバナ-シャンペーン校とKyushu-Illinois Partnership Senior Leaders' Meetingを
開催

- 13日 「Forum “Math-for-Industry” 2021 -Mathematics for Digital Economy-」
(ベトナム高等数学研究所主催、ハイブリッド開催)にプログラム担当教員、プログラム生が参加

- 18日 入試説明会をハイブリッド形式で開催

- 1月 8日 「大学院教育改革フォーラム2021」(大阪大学主催)にパネリストとして参加

- 20日 令和4年度入学者 募集開始

- 25日 General Meetingをオンラインで実施

- 2月 14日 「The 3rd International Symposium on AI Electronics」(東北大学主催)で招待講演を実施

- 3月 3日 Prelims(修士課程修了時の進学資格審査)をオンラインで実施

- 9日 令和4年度入学者 合格発表

- 22日 令和2年度採択プログラムに係るプログラムオフィサー現地訪問【2年度目】

- 25日 グローバルアドバイザーボードをオンラインで実施

III 活動記録

2. 活動実績(令和3年度)

本プログラムでは、達成を目指す項目を具体的に設定しており、各項目について年度ごとに数値目標を掲げている。令和3年度における目標値及び達成状況を以下に示す。

目標達成状況は概ね良好であり、初年度ですでに目標を上回る実績をあげている項目も存在する。中でも、本プログラムの特徴的な取り組みの1つである「卓越社会人博士課程制度」において1名の採用が決定し、「日本学術振興会特別研究員」に3名が採択された点は、令和3年度には、数値目標を設定していなかったにも関わらず、計画より早く実績を上げており、特筆すべき点として挙げられる。

目 標項目	目 標値	達 成状況
国際学会の発表者数	4名程度	4名
海外連携先機関数	7機関	7機関
受賞件数	1件程度	1件
IMIコロキウム開催数	8件程度	8件
卓越社会人博士課程制度適用学生数	—	1名
企業客員教員講義	2件程度	1件
日本学術振興会特別研究員採択者	—	新規採用3件
分野横断的共同研究課題数	1件程度	2件
産業界との共同研究に参画した学生数	1名程度	1名
留学生・社会人学生の割合	20%以上	20%
月10万円程度もしくはそれ以上の経済支援を受ける学生数	10名以上	13名
国際シンポジウムの開催数	1回以上	1回